小中一貫校　南アルプス市立櫛形中学校　「学校だより」　第１６号　２０２５．１１．１７（月）

あやめ

Aim High

in「一期一会」

文責：生徒指導主事　櫻本直弘

歌でつながるお互いの心

先月末から今月にかけて、櫛形地区内各小学校に**「合唱交流会」**として櫛形中生が参加してきました。中学生にとって、学校を代表して小学校に合唱披露に行けることはたいへん「誇らしい」ことであり、同時に大きな喜びも感じられる機会です。

小学生よりも少しだけ**「大人」**に成長した中学生…。そんな成長した姿や成長を感じさせる歌声が披露できたでしょうか。今回の歌声が小学生の心に強く響いてくれることを願います。

10／29（水）　小笠原小
櫛形中１学年参加
10／30（木）　櫛形北小
櫛形中3－3参加
10／30（木）　豊小
櫛形中3－5参加
11／14（金）　櫛形西小
櫛形中2－4参加

もはや「他人事」ではありません

今年は北海道や東北地方を中心にクマの出没情報が数多く聞かれ、多くの被害者が出るなど例年にないほどの「クマへの警戒」が叫ばれています。ただ、実際に野生のクマに遭遇したことのない私たちにとって、どこか「遠い世界の話」のように感じていなかったでしょうか。

しかし、ここのところ頻繁に山梨県内（甲府の市街地）でもクマの出没が確認されています。いよいよ**私たちの身近にも「危険」が迫ってきているのかもしれません。**ましてや「櫛形山」の麓に広がるこの「南アルプス市（櫛形地区）」はいつクマに遭遇してもおかしくない場所です。改めて、真剣に「クマ対策」を考える必要も出てきたのかもしれません。

【クマの習性】

①６月～１１月頃までの出没が多い
②昼行性で、特に朝と夕方の薄暗い時間帯に活発に活動する
③人間の食べ物の味を覚えたクマは、頻繁に市街地に下りてくる
④嗅覚が強く、においにつられて移動する
⑤臆病だが、脅かすと怖がって襲ってくる
⑥四足で走る速さは人間よりもはるかに速い
⑦子グマがいる際、母グマは子供を守るため特に警戒心が強く攻撃的になる

【クマへの対策】

①音の出るものを携行し、登下校時などはひとりで行動しない
②食べ物等を持ち歩かない
③クマ撃退スプレーなどを携行する
④クマが近くにいるサイン（足跡やフン）を見つけたら速やかにその場を離れる
⑤クマに遭遇した場合、クマに背を向けずゆっくりと後ずさりをして逃げる
⑥クマを興奮させない（大声で叫ぶ・石を投げるなどはNG）
⑦近くの民家や商業施設等に逃げ込み、助けを求める
⑧万が一、襲われそうになったら両手を首の後ろに組んで、顔を伏せる体制をとる

見えていますか？「子どもたちの世界」が…

ここのところ、ＳＮＳの使い方に関する問題が連続して発生しています。内容としては**「面白半分で他人の画像や動画を送る」「それをもらって拡散する」**あるいは**「そういう画像や動画を要求する」**といったもので、なかには「性的な内容のもの」さえ含まれているような状況です。

本人に許可なく知らない所で画像や動画を拡散させること、あるいはその拡散に関わること、そしてそれらの画像や動画を所持していること、これらすべて立派な「犯罪」です。そこに悪意があろうがなかろうが、そのつもりがあろうがなかろうが、ダメなものはダメです。ましてやそれが「性的な内容のもの」となれば、その罪は何倍にも膨れ上がります。

そういった内容の画像や動画が子どもたちの間では広がっているようです。そしてそれは、遠い世界の誰かがやっているのではなく、すぐそばにいる私たちの仲間がやっているようです。

知らず知らずのうちにお子さんも加害者のひとりになっていないでしょうか。面白半分でこれらの行為に関わっていないでしょうか。面白半分でやっていたことが、お子さんの人生や、被害者の人生を大きく狂わせることになりかねません。そして、一番恐ろしいのは**一歩間違えるとお子さん自身が「被害者」になりかねない**ということです。そういう危険性も十分に考えなければなりません。

私たち大人が見えている世界と、子どもたちが触れているＳＮＳ上の現実とは大きな隔たりがあるのかもしれません。もしかしたら、我々大人が想像もできないようなやり取りがリアルタイムで行われているのかもしれません。そんな心配・危機感をぜひ保護者の皆様にも感じていただきたくて今回このような内容の文章を書かせていただきました。

ＳＮＳへの入り口となるスマートフォン。そしてそれを購入されている保護者の皆様。ぜひこの機会に子どもたちのＳＮＳの状況について真剣に考えてみてください。また、購入責任者として子どもたちのスマートフォンの使用内容を一度詳しく調査してみてください。

学校も保護者の皆様も思いはひとつのはずです。**ひとりとして「犯罪にかかわる人間」や「犯罪によって心を痛める人間」を出したくありません…。**